



たがら



発行 令和3年4月6日
練馬区立田柄小学校
校長 伊藤 雄一

練馬区立田柄小学校の
学校ホームページ
携帯サイトはこちらから



未来をたくましく切り拓く

校長 伊藤 雄一

令和3年度、開校64周年の田柄小学校がスタートしました。お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。このたび、練馬区立田柄小学校の校長として着任いたしました。田柄の地域の皆様の強い願いによって開校して以来、学校が培い育てきた「宝」を基に児童、教職員、保護者・地域の皆様と共に一歩ずつすすんでいきます。どうぞよろしく願いいたします。

昨年3月の全国一斉の臨時休業から始まったコロナ対応は、学校にとっても歴史的な出来事となっています。コロナ前に「これからの子供たちが生きる将来は、予測困難な時代である…」等を教育関係者が述べていましたが、突然私たちがその「予測困難な時代」を生きることになりました。学校と言え、四季を感じるができる様々な行事が「例年通り」行われることが多くの方にとって風物詩でありましたが、それは一度なくなりました。田柄小学校においても昨年度は「予測困難」な日々を学校、保護者・地域の皆様が知恵を出し合い、教育活動をすすめてきました。そのお蔭で、行事の中止が度重なって残念な思いもありましたが、一方で一生忘れられない思い出も数多くできたことと思います。

このことを通してあらためて、予測困難な状況になったときに大切な力とは何かを考えてみました。私は、有益で正確な情報を迅速にキャッチし、集団での合意形成をするために試行錯誤すること。決定したことの根拠を明確にして、わかりやすく発信していくことが大切だと考えました。何より大切なのは、意志決定のための軸をしっかりとつこと。加えて、うまくいかないことがあっても、粘り強く取り組み続けることも必須であると感じています。思えば、これらのことは、これまでの学校教育で大切であるとされてきたことばかり。今後、児童全員に配付されたタブレットパソコンを活用しての教育活動を通して一人一人が培っていくべき力であると思います。これらは子供たちが「未来をたくましく切り拓く」力となります。国の「GIGAスクール構想」は「田柄GIGAスクール構想」でもあります。幸い、田柄小学校では、タブレットパソコン導入と同時に、「まず、やってみる」の姿勢で活用に果敢に挑戦している学校であります。また、昨年度までの練馬区教育課題研究指定校としての財産も生かしていきます。

堅苦しいことを長々と書きましたが、端的に言うと、「今年に変化の年、大切な一年。」であるとの校長自身への戒め、抱負です。まずは、コロナ感染拡大防止を始めとして安心して子供たちが毎日学校に行きたくなるよう教職員一同、全力を尽くします。